獣医のカルテ 116



ハニーアニマルクリニック院長
（富山市婦中町広田）
西尾 洋介

元気なうちに考えてみて

犬猫の高齢化対策

犬猫は高齢になると、視覚、聴覚、嗅覚、認知機能、運動機能、消化機能、体温調節機能などが徐々に低下します。動きが遅くなる、転ぶ、飼い主の呼びかけに反応が遅くなる、排せつを失敗する、食餌や睡眠のリズムが変わる、徘徊、夜泣き、寝たきりなどさまざまな変化が表れ、「介護」が必要なケースが増えています。これらの加齢に伴う変化は治療による大きな改善を期待できず、飼い主の経済的、肉体的、精神的負担も大きな問題となります。高齢化対策は健康管理、生活環境の整備、もしもの時の備えが大切です。

まず健康管理です。食欲、食べる量やスピード、元気、歩き方、排せつの量や形状、頻度、睡眠時間などを日々チェックしましょう。ちょっとした変化に早く気づくことが大切です。見た目は元気でも病気が隠れていることもありますので、定期的に健康診断を受けることもよいでしょう。



滑りにくい床でオムツを使用している犬

続いて生活環境の整備です。足腰や目が悪くなると転んでけがをする危険があります。じゅうたんなどで床を滑りにくくし、段差をできる限りなくして移動しやすい環境をつくりましょう。徘徊し物にぶつかる、隙間に入り込んだら戻れないなど認知機能や行動に異常がみられる場合は円形のサークルを用意してもよいでしょう。寝床は季節に合わせ体温調節がしやすい素材を選びましょう。寝返りが自由にできない場合は床ずれができにくいよう適度な柔らかさの寝床を用意しましょう。体位交換も大切です。起立や歩行が難しければ動物用車いすや歩行補助ハーネス、担架の使用も効果的です。

排せつの失敗はオムツやマナーベルト、ペットシーツを活用しましょう。オムツやマナーベルトは排せつ物が漏れずとても便利なのですがデメリットもあります。尿は皮膚刺激性が強く、長い時間接触していると皮膚炎、皮膚壊死の原因になります。便はハエウジ症の原因になります。こまめな交換、陰部の洗浄、被毛の乾燥など清潔の維持が大切です。

また、夜泣きも大きな問題です。飼い主の睡眠時間減少、ご近所への配慮などから肉体的、精神的負担となります。夜泣きは認知機能の低下、昼夜逆転、排せつ、不安、痛み、不調などが重なって起こることが多いです。日中の活動を増やし、就寝前に散歩、排せつ、給餌、給水などを済ませ、刺激の少ない安心できる寝床を用意することが効果的です。それでも困難な場合は、薬やサプリメントの使用を考えてもよいでしょう。

最後に、もしもの時の備えです。飼い主自身が入院や介護で犬猫の世話ができなくなる場合に備えて、預け先や引き継ぎ先を考えておくことが大切です。介護施設や一時預かりを含む老犬老猫向けの預かり先もあるので、一般的なペットホテルで受け入れが難しい場合は選択肢になります。

高齢期になってから慌てるのではなく、元気なうちに考えてみてはいかがでしょうか？

毎月第1土曜掲載